

重点取組分野	令和 7 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①小中連携を密にし9年間の継続性を重視するため、お互いの取組やより良い授業・評価方法などを共有し実践していく。②普段から授業を見合い、より良い授業の工夫などをシェアしお互いの授業力向上に努める。③細かく評価し生徒へフィードバックすることや学習状況調査などのデータ分析を活用し、個々に合わせた適切な指導や授業改善に努める。	①小中一貫教育の取組で幹事校の授業研と、中学校での授業研を通して、9年間で育てたい児童生徒像の共有を図ることができた。②授業を見合う週間を通して授業力アップに努めた。③全国学状、横浜市学状の結果では、どの学年も基礎学力の高さが表れていた。	B
豊かな心	①生徒の実態をしっかりとらえ、体験的活動を通じて、自己を見つめ、他者との関わりを考える機会を多くつくり、自他を尊重する心の育成に努める。②道徳授業の充実をねらいとした研修会等を行い、教員側の意識向上や授業力向上を図る。	①遠足や修学旅行等の行事では班別自主行動の場を設定し、互いに協力し助け合う活動を通して自他を尊重する心の育成に努めた。1学年では地域の福祉介護職の方を招いて「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症の方との関わりについて考える機会を得た。②夏休み明け前日の出勤日に外部講師（北部ハマアップ授業改善支援員）を招いて「道徳の授業と評価」についての校内研修会を実施した。豊富な資料に丁寧な説明で、振り回りアンケートでも「学びがあった」という声が多く寄せられた。	A
健やかな体	①体育祭や球技大会等の体育的行事を計画的に行うことにより、生徒の運動や体力づくりに対する関心を高めたい。②新体力テストの結果等を活用し、自己の体力を分析することや、体力向上と生涯スポーツの視点を持ちながら部活動や保健体育の授業に取り組む。	①5月に体育祭を実施した。意欲的に行事に取り組む姿が見られ、体力の向上につながる姿勢があった。次年度も行事等を通じて運動や体力づくりの関心を高めたい。②新体力テストの結果より、自己の体力を分析したり、これまで行ってきたトレーニングの効果について考えることができた。また、自己の体力の課題を捉え、普段の生活やトレーニングにいかすことができた。	A
自分づくり教育 (キャリア教育)	・全学年に導入したエナジードという教材をメインの柱としてインプットし、「身近なことで改善できること」、「まちの先生」や「SDGs」をテーマとした課題解決学習を並列で学習しアウトプットすることで、自分自身のより良い生き方や考え方について学び、3年の進路学習を通じて、自己決定と進路実現の実践力を養えるよう指導する。	・エナジードを用いて課題解決に向かう力を養い、「身近なことで改善できること」、「まちの先生」や「SDGs」をテーマとした課題解決学習を展開した。インプットとアウトプットをくり返すことで、自分自身のより良い生き方や考え方について学び、3年の進路学習を通じて、自己決定と進路実現の実践力を養うことができた。	A
いじめへの対応	・いじめ防止対策委員会を定期的に開催しいじめの早期発見と未然防止に努め、具体的な支援を推進する。教育相談の時間を十分に確保し、生徒の成長や変化、困り感等に寄り添うようにする。横浜こども会議への取組などを通して生徒の主体性や意見表明を尊重し、いじめの未然防止、豊かな心の育成を図る。	・いじめ防止対策委員会では積極的認知・積極的解消を支援することができた。また横浜こども会議やいじめ解決キャンペーンの成果等を活用しながら予防策や支援策を広く協議し、いじめ防止基本方針に生徒の声を反映させることができた。定期的教育相談に加え日々の相談活動の充実にも努め、生徒に寄り添う姿勢を学校全体で作ることができた。	A
人材育成・ 組織運営(働き方)	①メンターチームを組織し、モデルリーダーが中心となって定例の研修を継続して行い、ステージ1,2の教職員の実践力を高める。②情報交換連絡会等を活用しながら、教職員がそれぞれのステージにおいて学校運営に主体的に関われるように務める。③情報DXを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、持続可能で組織的な働き方改革を推進する。	①メンター研修を定期的に開催し、ステージ1,2の困り感に沿った内容の研修を実施、実践につなげた。②様々なステージの教職員が係代表や行事責任者を経験することを通して、学校運営に主体的に関わることを実感できた。③業務改善係が年度途中にも改善策を提案したり、組織マネジメントツールを活用した校内研修や対話を続けている。効果を実感するまで、継続したい。	B
特別支援教育	①特別支援委員会の定期開催と内容の充実を図り、現状や一人ひとりの思いに基づいて支援を要する生徒に対する理解を深める。②不登校支援やユニバーサルデザインに関する研修を行い、職員での理解を深める。③校内ハートフルの運営方法を検討し、生徒の居場所作りの1つとして充実を目指す。	①生徒の状況が多様化していく中で、必要な情報を必要な時期に提示できるように今後も心掛けていく。③校内ハートフルでの支援内容について、各教科の取り組みは増えてきた。生徒の居場所という在り方だけでなく、それぞれのステップアップの場になるように、引き続き充実を目指す。	A
生徒の主体的な活動	・生徒自治の充実とチャレンジ精神の育成に努める。生徒会活動や委員会活動を活性化し、生徒が企画や運営を行い成功体験を積み重ねる中で、挑戦する気持ちが育むよう声掛けや支援を行う。	・体育館開放や卒業フェスなど、企画や運営を生徒会が主体となって行うことをサポートすることで、挑戦する気持ちや、主体的に活動する姿勢をばぐむことができた。また各委員会も体育祭や文化祭といった行事や、普段の委員会の活動を通して、主体的に行動する機会を設けることができた。	A
生徒指導	①学校のきまりについては現在の社会情勢に沿うか検討するとともに、生徒自らが考え話し合う機会を設定し、見直しを図る。②年3回の教育相談日の設定、日々の毎日の健康観察(スタナビの活用)、日頃からの声かけなど、生徒一人ひとりの思いに寄り添った生徒指導に組織的に取り組む。③生徒指導研修会を実施し、Y-Pアセスメント等を活用しながら組織的な対応を行う。	①生活委員が中心となりきまりについて話し合う機会を設定し、見直しを図った。②日々のスタナビの状況や年3回の教育相談における生徒の情報を学年教職員で共有するとともに、日頃の声かけを積極的に行い生徒の状況把握と支援に努めた。③生徒指導研修会を2回実施し、教職員の指導方針を一致させ、生徒一人ひとりに寄り添った組織的な指導に努めた。	A
地域連携	学校運営協議会や学校・家庭・地域連携事業の活動を通して、地域と学校との意思疎通を充分に図り、地域とともにある学校運営を推進していく。地域行事や夏の祭礼、各種イベントなどで生徒が地域社会でいきいきと活動できるように、学校地域コーディネーターとの連携をさらに推進していく。	学校運営協議会からのご意見などを受け、地域と学校のつながりを意識する場面を多く展開することができた。専任やコーディネーターの橋渡りで地域の各団体と学校を結びつけることもできた。生徒会役員が地区センターでボランティア活動をしたり、祭礼や登校指導に職員が参加するなど、具体的な活動の場も多くなっている。	A
ブロック内 評価後の 気付き	アンケートの結果から、どの項目においても「とてもそう思う」「そう思う」の回答が多く見られ、あらゆる取り組みについて適切に対応できている様子を感した。また、生徒のアンケート結果から「学校生活が楽しい」「きまりやマナーを守る」「安全に気をつけて」の評価が高いことから、心身ともに健全な学校生活を送れているということが感じられた。実際に授業等見学した際には、生徒会活動や部活動に熱心に取り組む、充実した学校生活を送っている様子が伺えた。メディアの使い方の結果の差が大きいのは、親子の世代感が影響しているように考える。各家庭でルールを作り、有効な使い方をしているかについて話し合うよう促す。また、保護者の「わからない」の回答についてもHPやすぐー等を通して、生徒の日常を配信する工夫も考えられる。		
学校関係者 評価	生徒数1000人を超える大規模校でありながら、様々な場面で生徒の安全と安心を心がけ、生徒に寄り添い、教育活動を丁寧に行っていることは評価できる。「いじめの未然防止、積極的ないじめの認知」の取組や対応も組織的に行われ、成果も上がっている。校内ハートフルでの支援や体制も良い形ではじめ、今後も生徒一人ひとりが安心して学校生活を過ごせるように努力を続けてほしい。 教職員、生徒、保護者のアンケート結果を数値化し、今年度は子どもの声を学校づくりアンケートに反映させた。きちんと分析するなどして、今後も生徒の思いを汲み取り、自信をもって教育活動に取り組んでいきたい。		

中期取組目標 振り返り	中期経営方針の取組目標としている「傾聴」「受容と共感」を大切にした生徒理解に努め、生徒の良いところを「認めて褒める」ことを実践し、自己決定を促したり、指導が必要な場面でも説得ではなく、納得を引き出す指導、支援に努めたりしている。生徒には「将来、社会に貢献する一員として、自分らしさを発揮し、生きがいと誇りをもって、幸せに生きる人」になってほしいと願い、子どもが主体的に自分の考えや思いを発信できる機会を様々な場面で取り入れた。一定の成果はあったので、今年度の振り返りを職員で共有し、学校教育目標「共に生きる」の実現に向けて、次年度も継続していきたい。
----------------	---

重点取組分野	令和 8 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	b1		
豊かな心	b2		
健やかな体	b3		
自分づくり教育 (キャリア教育)	b4		
いじめへの対応	b5		
人材育成・ 組織運営(働き方)	b6		
特別支援教育	b7		
生徒の主体的な活動	b8		
生徒指導	b9		
地域連携	b10		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			

中期取組目標 振り返り	
----------------	--

重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
自分づくり教育 (キャリア教育)	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・ 組織運営(働き方)	c6		
特別支援教育	c7		
生徒の主体的な活動	c8		
生徒指導	c9		
地域連携	c10		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			

中期取組目標 振り返り	
----------------	--